



わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
- どんな暴力も許しません
- 思いやりの心を持ち、助け合います
- 相手の立場に立って考えます
- かけがえのない地球環境を守ります
- みんなで力を合わせます

（「わたしの平和宣言」は、1998年に開かれた国際人権会議に集まった、ノーベル平和賞受賞者が起草した6項目の誓い。項目のタイトル部分）

平和の鐘を鳴らそう2022

核兵器廃絶、戦争のない世界をめざして

ロシアのウクライナ侵攻が続く中、今ほど核兵器廃絶、戦争のない平和な世界の実現が求められている時はありません。広島ユネスコ協会は、一人一人の心からの願いを込めて、「平和の鐘を鳴らそう2022」（第21回）の集いを行います。

日時：8月15日（月）10：00～11：00

場所：広島平和記念公園「平和の鐘」鐘楼前

※ 新型コロナ感染拡大防止のためマスク着用
荒天（台風）の場合は延期し20日（土）に予定



地球平和監視時計

（広島平和記念資料館東館＝2022・7・9）



「平和の鐘を鳴らそう」

（2009・8・15）



捧げられた折り鶴と「原爆の子の像」

広島ユネスコ協会

本年度の事業計画

（事業内容の要約 広報部会理事・清水昌法）

組 織 部 会

- 会員の増強 財政の確立
- 会員の維持
- 青年部の育成

青少年育成部会

○青少年対象語学講座（広島市青少年センター共催事業）

（1）「英語でガイド in ひろしま」

- ①日時：7月30日（土）10:00～12:00、13:00～15:00
- 7月31日（日）10:00～12:00、13:00～15:00

②内容：平和公園内の碑を中心にガイド

③対象者：15歳～30歳

④参加費：1000円

⑤募集人数：20名

⑥講師：ワールド・フレンドシップ・センター
山根美智子さん

（2）「英語でニュースを読もう!!」

①日時：8月7日（日）13：00～15：00

8月14日（日）13：00～15：00

8月21日（日）13：00～15：00

②内容：リーダー育成プログラム

③対象：15歳～30歳

④参加費：1000円

⑤募集人数：15名

* 上記(1)(2)マスク着用、距離を取る等コロナ感染防止対策をする

- 「高校生国際理解セミナー」
(教育部会と連携、広島市青少年センター共催事業)
- ①日時：12月11日(日)
10：00～12：00 基調講演等
13：00～14：30 意見交換・発表
- ②会場：広島市青少年センター
- 高校生コーアクションは中止とする
- 高校生&青少年ネットワーク
広島市青少年センターと協力が必要

教育部会

- 第25回広島ユネスコ活動奨励賞事業
(6月～翌年2月)
- 高校生国際理解セミナー事業
(広島市青少年センター共催、青少年育成部会への協力)
- 世界寺子屋運動(日ユ協連)への協力
書き損じはがき回収キャンペーンの実施(通年)
- 関係機関・学校・団体との連携

文化部会

- 「ユネスコサロン」年3回予定
第180回「ユネスコサロン」
日時：7月9日(土) 14：00～15：30
会場：広島市国際青年会館研修室
講師：畑口實・元広島平和記念資料館長
(広島ユネスコ協会副会長)
(3頁に記事掲載)
- 第181回「ユネスコサロン」
日時：9月25日(日) 14：00～15：30
会場：広島市国際青年会館研修室B・C
講師：ユニタール広島事務所
トレーニング・アソシエイト
島津準子さん
- 第182回「ユネスコサロン」
日時：2023年3月予定

国際部会

- フラワーフェスティバル関係(今年度中止)
- 韓国ユネスコ大邱協会友好親善訪問団との交流
(検討中)
- (1) 日時：10月～11月
- (2) 行程(案)
1日目歓迎会。2～3日目：韓国人慰霊碑

献花、メリィハウス八千代、帝釈峡、風土記の丘、奥田元宋・小由女美術館、三次ワイナリー、西条酒造通り。4日目：広島城

- ぺあせろべ参画
日程、会場：未定
- 国際フェスタ参画
日程：11月20日(日)
- 部会内研修

平和・世界遺産部会

- 平和推進事業
(1)「平和の鐘を鳴らそう」(第21回)
日時：8月15日(月) 10：00～11：00
場所：広島平和記念公園「平和の鐘」鐘楼前
内容：平和のメッセージをスピーチ、合唱、黙とう、平和の鐘を鳴らす
荒天(台風)の場合は延期し20日(土)に予定
- (2) 杉並ユネスコ協会青年部のヒロシマ平和学習受入れ事業(第22回)
日時：2023年3月下旬
場所：広島平和記念資料館、広島平和記念公園
内容：広島平和記念資料館見学等、広島平和記念公園の碑巡り
参加者：杉並ユネスコ協会青年部等
- 世界遺産事業

広報部会

- 機関紙の発行(年3回予定)
- ホームページの充実
- オンラインの普及・促進を継続
- 「50周年記念誌」発刊(2024年2月)へ

事務局

- 組織の活性化
- 年間行事の調整と専門部会などとの連絡調整
- 事務処理の円滑化を図る
- 全体的な事業の見直し
- 主要事業の推進
- Web会議による各種会議の開催
- 広島ユ協発足50周年となる2023年6月に向けて、具体的な内容について実行委員会で検討を行う

世界に絵本を贈る活動と SDGs

「ひろしまと世界を結ぶこども文庫」

代表 柴田 幸子
(広島ユネスコ協会参与)

この26年間、多くの方々に助けられ168カ国1503カ所に、絵本(3010冊)を贈ることができました。贈本運動を始めるきっかけは、1995年、第4回世界女性会議(北京会議)のNGOフォーラムに、広島市の派遣メンバー(11人)として参加したことでした。

開催中「核兵器の廃絶と平和の創造」をテーマにワークショップを行い、被爆直後の写真やポスターと共に10数冊の絵本も展示。アメリカの女子高校生が「原爆のことをいろいろと聞いていたが、こんなに酷いものとは知らなかった」と絵本の感想を話してくれた。その言葉は「世界の人たちが原爆の本当の恐ろしさを知らないこと」を私達に教えていた。

翌日、ヒラリークリントン・アメリカ大統領夫人(当時)の記念講演があり「女性の行動力こそが世界を動かす力になるでしょう」という、結びの言葉は私たちに大きな励みとなった。世界の人々と話し

合い交流する中で、「核兵器の廃絶」「地球環境の保全」等、共に取り組まなければならない課題がたくさんあることを痛感。そしてこのワークショップで民族・宗教・文化・



「国連軍縮フェローズ」コロロフ団長(ブルガリア)に、グテーレス国連事務総長へ『絵で読む広島原爆』(作・那須正幹 福音館書店)の絵本を届けてもらうよう、お願いする(2019年10月)

言葉の壁を超え人々に直接、「平和のメッセージを伝えることの出来る絵本の力」に驚かされる。折も折、北京会議の最中、中国と仏国が核実験を行う。

帰国後話し合い「私たちに出来る事から始めよう」と、中国の子どもたちに「環境や平和」の絵本を贈り、共に考え交流するきっかけになればと会を

発足。日中協会や留学生と交流を楽しみながら、広島市の小・中学校と交流のある北京市・重慶市ほか10校に「環境や平和」等の各10冊を贈る。いくつかの学校からお礼と感想文が届く。この

の絵や感想文を、日本の子どもたちに見てもらい、中国に親しみと関心を持つことが出来たらと、広島市こども図書館や市内の公民館の協力で展示会を開くことが出来た。

中国の小学校へ絵本を贈ることから始めた「草の根活動の輪」は、大きく広がっていった。広島で開催の「世界平和首長会議」や「G8首脳会議」等の国際会議をはじめ、国連派遣の「軍縮フェローズ」、姉妹都市からの訪問団、高校生平和大使やJICA派遣の国々へと、絵本を通して「ヒロシマの心」が多くの人々の協力で繋がっていった。そして思いもかけない、ローマ教皇庁、ヒラリー・クリントン国務長官(米国)、ナンシー・ペロシ下院議長(同)、メルケル首相(独国)、マクロン大統領(仏国)、ケリー国務長官(米国)、ケネディ駐日米国大使から大使館を通して、河野洋平衆議院議長からは直接お礼状を頂き感激でした。

絵本が世界のどこかで、いつまでも読み継がれることを願っています。これからも平和の心を広げるSDGs(国連で採択された持続可能な開発目標達成のための活動)に取り組んでまいります。



タイ国研修生を、こども図書館や文化科学館に案内、次世代間の交流を楽しんだ。左から柴田愛花さん(通訳)、シリマス・ジチョックさん(タイ、広島市交流職員)、筆者、宮郷昌子さん(折鶴提供で活躍) = (2019年8月)

第180回 「ユネスコサロン」

畑口 實
元広島平和記念資料館長
(広島ユネスコ協会副会長)

畑口實・元広島平和記念資料館長(広島ユネスコ協会副会長)を講師に迎えて、第180回「ユネスコサロン」が、7月9日(土)に開かれました。演題は「原爆被害の概要とヒロシマの心」。

畑口さんは、広島になぜ原爆が投下されたのかの経緯について、日清・日露、ヨーロッパ・日米対立などの戦争の歴史を通して、分かり易く話されました。



また自らの被爆体験(胎内被爆)や、平和記念資料館長当時、海外要人を案内して回った際のエピソードを紹介されました。講話の中で畑口さんは、「自分の被爆体験を語るほど辛いことはない」と語るとともに、ロシアのウクライナ侵攻に触れ「武力による侵攻は絶対にあってはならない」と訴えられ、平和への決意を新たにさせていただきました。(サロンに参加して・広報部会)

広島ユネスコ協会
発足50年へ

中本 信子
(広島ユネスコ協会理事)

平和へ願いを込めて

被爆、ユネスコ、死没者名簿記帳

私にとってユネスコは、遠い夢の憧れの存在でした。崇高な精神の下、平和を愛し、真理を求める人の特別な集まりであって、自分には手の届かないものと思っていました。

数年前小学校のクラス会があった時、担任だった末重文男先生(現・広島ユ協理事)から、ユネスコ協会への入会を勧められ、今日に至っています。初めは、時々参加する程度でしたが、ユネスコの「国際協力を通じて、平和な世界を目指す国連の専門機関であり、教育や科学・文化の振興を通じて、戦争の悲劇を二度と繰返さない」という理念に共鳴し、意識を変えました。

私は被爆者とはいえ、当時3歳になったばかりで、原爆の恐怖を覚えていません。しかし、広島市民として、平和教育や本・絵画等追体験や実相を知るにつれ、心を動かされ、反核・平和を若い人に伝えなければならぬという使命感にかられました。

私はまた「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない」という、ユネスコ憲章の前文に特に心揺さぶられました。

今、私は広島市役所から「広島市原爆死没者名簿」の記帳を依頼され、今年で22回目を迎えました。昨

年の8月6日までに名簿に登録された死没被爆者の総数は、32万8929名を数えます。今年は、6月末現在で4548名が確認されています。

広島は77年前、原爆投下により、焦土化し悲惨な街となり、未曾有の被害をもたらしました。被爆者の平均年齢も80歳を越え、直接、体験を伝える機会が失われています。

戦争の過去を知り、未来へつなげていく若者が今こそ必要なのです。「平和を思うその心」が砦となります。音楽や絵画・演劇等、文化的な表現活動・学問や科学が同様に砦となり、一層強固なものになるでしょう。

平和へSDGsの活動が不可欠です。ユネスコは大切な役目を果たしています。ウクライナの平和が取り戻されることを願いながら、この夏も心を込めて原爆死没者のお名前を記帳をします。



写真①は「平和の鐘を鳴らそう2013」、
②は若者の署名に対応する筆者(左)=2018年



いざ、Zoomにチャレンジ!

リモート研修を継続へ

6月5日、中央公民館において主にユネスコ協会の理事を対象にしたZoom研修会が開催されました。会には松原副会長をはじめ、文化部会から3名、平和・世界遺産部会から2名、森木事務局長の計7名がパソコンやタブレットを持参して参加しました。

当初はホストになることを目指しましたが、wi-fiが繋がりにくいこともあり、とりあえずZoomミーティングに参加できるようになることを目指して、全員で頑張りました。次回からは、ホストを務めることができるよう、実際にZoomを使ったりリモート学習会を開き、研修を継続して行うことになりました。皆さん頑張りました。

(広報部会理事 岡平裕次)

<書き損じはがき集めています>

(公社)日本ユネスコ協会連盟は、地球のたからものを守る「世界遺産活動」をはじめ、すべての人に教育のチャンスを広げる「世界寺子屋運動」や「一杯のスプーン」「未来遺産」など、さまざまなユネスコ活動を行っています。広島ユネスコ協会は、世界寺子屋運動の支援活動として、書き損じはがきを集め、切手に交換して日本ユ協連に送っています。

ぜひ広島ユ協事務局までお送りください。

<送り先>

〒730-0036 広島市中区袋町6番36号
広島市まちづくり市民交流プラザ
メールボックス89号気付

<「ウクライナ募金協力」に、礼状届く>

有難うございました。ウクライナ緊急募金

(公社)日本ユネスコ協会連盟から、5月31日受付終了しました。

3月4日より協力を呼びかけてまいりました「ユネスコ協会・ウクライナ緊急募金」は、5月31日で受付を終了いたしました。期間中は以下の進捗とおり、たいへん多くの方々にご協力いただきました。関係者一同、深く御礼申し上げます。

募金種別(進捗額)	2022年3月4日～5月31日	募金件数	金額(円)
ユネスコ協会・クラブ	160	10,001,418	
維持会員	42	49,970,081	
個人	547	11,300,080	
その他	56	4,493,143	
合計	804	74,401,528	

※5月中旬に手続され6月入金となる分のクレジットカード募金等は含まれておりません。

ウクライナ緊急募金の進捗と今後の「一杯のスプーン」募金受付について

- ・5月31日までに事務局に「連絡あり」6月中旬に入金されたものをウクライナ緊急募金に含みます。
- ・7月以降の2次金は、通常の「一杯のスプーン(アザワン、ネパール)」募金として、貧困層の人びとへの医療・保健・栄養支援に活用させていただきます。

振込先について

ウクライナからの避難民への支援は、緊急対応としてはこれと一旦区切りといたしますが、事態を見極めながら私たちにできることを、引き続き考えてまいります。

このたびの皆さまからの御礼とご支援に、心より感謝申し上げます。